

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術ワーキンググループ（第24回）

○ 日時 : 令和5年4月28日（金曜日）15時30分～16時45分

○ 場所 : オンライン

出席者

（委員）

徳永委員長、長田委員、下司委員、小高委員、小峯委員、竹内委員、遠田委員、長縄委員、新堀委員、長谷部委員、山崎委員、山元委員、吉田委員

（事務局）

下堀放射性廃棄物対策課長、北村放射性廃棄物対策課長補佐
原子力発電環境整備機構（NUMO） 梅木理事、兵藤部長

議題

文献調査段階における評価の考え方について

議事概要

1. 資料1について、前回までのWGでのコメントを踏まえた修正へのご意見

- 「断層及びその周辺の構造（p. 61）」について、副断層全てに断層ガウジや断層角礫が確認されているわけではないので、「副断層に断層ガウジや断層角礫が確認されることがあるので、きちんと調べるべき」といった表現に改めてほしい。
- 「地熱資源開発が行われるおそれがある（p. 206）」において、「地温勾配が100℃/km未満の場合でも在来型地熱の領域に該当する場合がある。」と記述されたことで、高い地温勾配が観測されない熱対流によるものも考慮していることが理解できた。
- 「好ましい地質環境特性（p. 217）」に記載されている「地山強度比2以上」というのは高い要求性能であり、あくまで土木施工上より好ましい場所の選択のための目安であることを明確にし、将来の調査の足かせにならないよう留意すべき。

2. 資料2（資料1に対する評価（案））対するご意見

- 評価の概要について、WGが主体となっている表現はよいが、受動態だとWGの活動を外の誰かが評価したように見える。主体が見えるような表現の見直しを希望する。
- 「6. 第四紀の未固結堆積物」及び「7. 鉱物資源」についてはそれなりに議論したので、「議論の上で妥当であると評価された」とするのがよいのでは。
- とりまとめの内容をどう使うかが気になる。「基準ができたからよし」だけでなく、住民との対話にどう使うかを考えながらまとめてほしい。関連する発言内容を盛り込むとよいのでは。
- 「概要調査地区選定を避ける場所」は、「概要調査地区選定において避ける場所」もしくは「概要調査地区選定段階で避ける場所」が適切では。

- 今回設定した基準をクリアしていることを誰が判断するのが明確になっていないところが気になる。最終処分法制定時と省庁の体制が異なることに対する考え方を知りたい。
- 多くの方が関心を持ってこの資料を見らと思うので、わかりやすい表現を心がけてほしい。また、段階的な調査の期間について明記し、数字が独り歩きしないように注意してほしい。
- 評価案の方向性については異論がなかった。内容の追加や表現の見直しの確認、今後のとりまとめの進め方については、委員長に一任する。

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

電話 : 03-3501-1992

F A X : 03-3501-1840